

## アジアにおける大気汚染問題の解決に向けた今後の取組

### 現状認識

- 大気汚染問題(PM<sub>2.5</sub>、PM<sub>10</sub>、光化学オキシダント、硫黄酸化物・窒素酸化物など)は、**アジア各国の国民の健康に影響**を及ぼしかねない共通の課題。
- 各国が対策に取り組み、既存の国際協力もあるが、抜本的な改善には一層の努力が必要。
- **我が国が有する豊富な経験と先進的な技術を活用**し、アジア各国が清浄な大気を共有できるように地域協力の強化に取り組むことは我が国に相応しい役割。

### 今後の取組の基本的考え方

1. アジア地域において**清浄な大気を共有することを各国共通の目標**とすることを目指す。
2. 目標達成に向けて以下の取組を総合的に推進する。
  - ・ **科学的知見**(観測データ、大気汚染メカニズム・動態、健康影響等)の**充実・共有**
  - ・ **日本の経験の共有**、人材・組織の能力構築や政策立案支援、高度な**環境技術の活用**
  - ・ 東アジア酸性雨モニタリングネットワーク(EANET)など**既存の枠組みを活用**した国際的議論の活発化 など
3. これらの取組の成果・進捗や各国の取組状況を踏まえつつ、地域レベルでの協働のため、
  - ・ アジアの大気環境に関する**地域協力の強化に向けた議論**を行い、アジア諸国の**共通理解の形成**を図る。
  - ・ **多様な主体**(国際機関・援助機関、国、地方公共団体、企業、研究機関等)の**連携**を通じて、上記の個別の取組を含めた様々な協力活動を強化・促進する。
4. 各国の実効ある対策の実施を促進し、アジアにおける大気汚染による影響の緩和を図る。